



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 7 月 7 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

新千円紙幣の顔「北里柴三郎」先生



新紙幣発行を記念しまして、今回は、野口英世博士にかわる千円札の新しい顔、北里柴三郎（きたざと しばさぶろう）先生について、少々蘊蓄を。先生は 1853 年 1 月 29 日（嘉永 5 年 12 月 20 日）肥後国阿蘇郡小国郷北里村（現・熊本県阿蘇郡小国町）に生まれた「肥後もっこす」です。言わずと知れた日本の微生物学の第一人者であり教育者、そして「近代日本医学の父」言われております。第 1 回ノーベル生理学・医学賞では、最終候補者（15 名のうちの 1 人）まで選ばれましたが、この時は共同研究者のベーリング氏が受賞し先生は選ばれませんでした。当時は共同受賞と言う考えが無かったせいとも言われていますが、さだかではありません。

多くの日本人が今でも先生の名前を身近に感じているのは、やはり先生の名前を冠する研究機関や大学があるからだと思います。

先生は、私立伝染病研究所（現・東京大学医科学研究所）創始者兼初代所長、私立北里研究所、北里研究所病院（現・学校法人北里研究所）創始者兼初代所長、北里大学学祖、慶應義塾大学部医学科学長（1920 年から慶應義塾大学医学部初代学部長）、慶應医学会初代会長、慶應義塾大学病院初代院長などを歴任されております。

先生のご功績で最も有名なのは、何と言っても破傷風の研究でしょうか。1889 年（明治 22 年）、先生は世界で初めて破傷風菌だけを取り出す「破傷風菌純粋培養法」に成功し、翌年の 1890 年（明治 23 年）には破傷風菌抗毒素を発見し、世界の医学界を驚嘆させた。そして「破傷風の血清療法の発明」に繋がっていきます。

血清療法ってなに？という間にお応えして、ザックリとご説明しましょう。

破傷風が出す毒を少しずつ動物に注射してみる。すると毒に対する耐性が出てきます。そのうち、大

量の毒を注射しても病気にならないものが出てくる。それを調べると、毒素を消す成分が見つかりました。その成分を破傷風にかかった人に注射すると、病気が治るという仕組みです。

山形県産業科学館 2 階 『科学道 100 冊』には、北里柴三郎～雷と呼ばれた男～上下（山崎光夫著：中央文庫）があります。是非この機会に手にとってお読みいただければと思います。

インターンシップ



7 月 2 日（火）から 3 日間、山形工業高校情報技術科 2 年生の 4 名が、本館でインターンシップを実施しました。ワークショップ動画 8 編の制作の他、科学道 100 冊のコーナーに、一言感想を書いて貼り付けてもらう「科学の木」を設置してもらいました。完成した動画は、館のホームページにアップの予定。「科学の木」も大きく元気に成長してくれることを祈っています。

